

① 国際教育シンポジウム2013 (2月1日・土)

国際教育から見える地域コミュニティ～震災後の東北から考える持続可能な社会～と題した標記シンポジウムが、仙台市青葉体育館で開催された。本学の根本アリソン特任准教授による基調講演「イギリスから福島へ、本当のふるさとは何？」があり、その後、分科会1では、仙台市内小学校の模擬授業、アメリカ・カナダからのALTによる海外の防災事情のグループワーク、分科会2では、青年海外協力隊の復興支援の現状や課題などを議論した。



② 環境・防災教育セミナー (2月7日・金)

本センター・研究プロジェクト「教員養成教育における環境防災教育」の一環として標記セミナー【特に被災地における大学教育の環境・防災教育カリキュラムの動向】が開催された。齋藤千映美教授による本学の「環境・防災教育」の講義概要、センター特任教授や溝田准教授による講義内容の発表、岩手大学比屋根教授より、岩手大学の取り組み発表があり、立教大学阿部治教授より各大学の取り組みに対するコメントがあった。その後、情報交換が行われた。



③ 特別支援教育フォーラム (3月1日・土)

震災から3年—これからの子どもたちの元気を支援するために

標記フォーラムの基調講演（女川町・村上善司教育長）では、震災から3年を経過した今、女川町の子どもたちの現状を説いたうえで、被災地の子どもたちの心の支援が求められていることなどを力説した。パネルディスカッションでは、郷間英世京都教育大学教授、藤森和美武蔵野大学教授、今野和則石巻支援学校長らが、一人一人に目を向けて教育することの大事さについて話し合われ、参加者たちは震災から3年の節目に、これからの変わり行く支援のあり方について熱心に耳を傾けて聞いていた。



④ 第3回国連防災世界会議 1年前シンポジウムに参加して (3月1日・土)

平成27年3月に開催予定の第3回国連防災世界会議が仙台市で開催されるにあたり、会議開催まであと1年となったこの時期に、世界へ、そして未来へ何を伝えていくべきなのかを考えるためのシンポジウムが開催された。内閣府大臣官房審議官（防災担当）佐々木克樹氏の「国際防災と日本の役割について」の基調講演と、「第3回国連防災世界会議」仙台開催と「防災・減災」、「復興」の未来と題したパネルディスカッションがあった。また、シンポジウムに先立ち“3.11シンサイカルタ”を使ったワークショップや展示コーナーがあった。



⑤ 第10回復興カフェ in Miyakyo (3月17日・月)

金沢大学環境保全センター長・鈴木克徳教授を講師にお迎えし、第10回復興カフェを開催した。「地域活性化を対象とした人材育成における大学と地域の連携」と題し、金沢大学の里山教育研究活動と地域貢献、角間の里山自然学校、「能登里山マイスター」養成プログラムなどお話し頂いた。



⑥ 気仙沼市復興座談会 (3月18日・火)

本センター研究プロジェクトの一環で、気仙沼市連携センターにて気仙沼市復興座談会が開催された。講師に、気仙沼市商工会議所会頭・菅原昭彦氏、磯谷水産代表取締役・安藤竜司氏、冷凍水産加工業共同組合長・菊田初男氏をお迎えし、気仙沼市の復興について同市における産業の核である水産業を軸に水産業の流通、冷蔵、加工、小売の連関について問題点を整理した。



⑦ ボランティア協力員総会 (4月23日・水)

平成26年度第1回ボランティア協力員総会が210番教室にて開催された。中井センター長の挨拶、職員紹介に続き、協力員の活動概要などの説明があり、新1年生55人を含む150人(3年32人、2年63名)体制でスタートすることになった。今後、学習支援ボランティア活動への参加呼びかけの他、運営メンバーを中心に新入生対象の被災地視察研修・復興カフェ in Miyakyo・大学祭などを企画・運営していく。



⑧ IIDEAタイ校長研修 (4月24日・木~4月25日・金)

本学と連携協定を結んでいるタイのIIDEAから、校長研修のため、団長 Mr.Anusak Ayuwatthana (タイ教育省南部国境地域教育開発部長) 他31名が本学を訪れ、日本の学校教育について講話を受けた。教育復興支援センターでは「本センターの概要と活動」を説明し、翌日の女川・石巻の被災地視察訪問を担当した。女川町立女川中学校では、授業見学や校長先生のお話しもあり、参加者たちは興味深げに聞き入っていた。



⑨ ボランティア協力員第1回定例会 (5月8日・木)

ボランティア協力員第1回定例会がセンターミーティングルームにて開催された。2年生の協力員を中心に23名の運営委員が、今年度の目標、運営メンバーの体制、役職・役割などを話し合い、今後やってみたいことなどを検討した。



⑩ グリーンウェイブ活動2014に参加 (5月22日・木)

国連が定める国際生物多様性の日(5月22日)に、世界各地の子どもたちが学校や地域などで植樹等を行う「グリーンウェイブ」活動2014へ、昨年に続き参加し、今年はブルーベリー2本(同系統内の2品種)を植樹した。今年も昨年植樹した四季咲きのバラ同様、環境教育実践研究センターの協力を得て実践した。



昨年植樹した四季咲きのバラ(数個のツボミあり)

⑪ 宮城県立石巻支援学校の運動会を支援 (5月24日・土)

石巻支援学校・運動会の教員補助ボランティア学生を派遣した。今年は学生の他にも、本学教員1名がボランティアとして参加し、東北福祉大学のボランティア学生とともに、競技補助、児童生徒の介助、テントの撤去など大活躍した。



⑫ JENESYS2.0 フィリピン防災コースの学生来訪 (5月30日・金)

JENESYS2.0の一環として、「防災」をテーマにフィリピンの大学生等37名が来訪した。一行は、防災のモデル都市に選ばれた宮城県仙台市を訪問後、本センターを訪れた。センター職員より、教育の復興状況を聞き、本学の学生との文化交流(お習字・折り紙など)の楽しいひとときを過ごした。また、昨年フィリピンを襲った台風30号被害への募金(15,907円)を、フィリピンにてボランティア活動を実践している学生へ託した。

